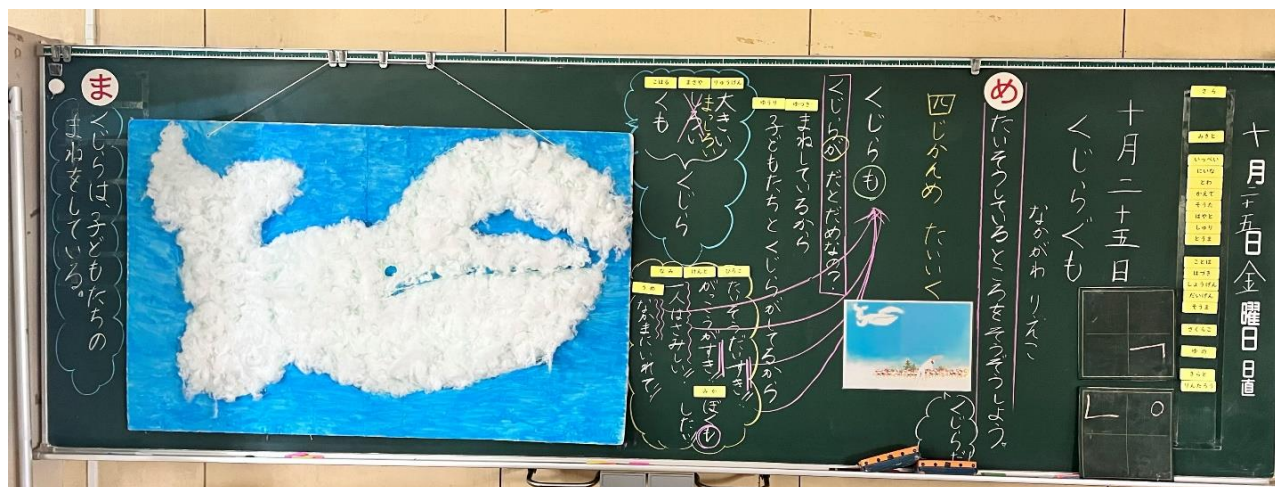




今週10月30日(水)に甲先生の「くじらぐも」の研究授業があります。教材研究を重ね、「くじらぐも」と1年2組の子ども達の出会い、「想像する」こと、会話文の書き方等をどんなふうに仕組んでいこうかと模索される先生の熱意に、改めて子ども達が「学びをたのしむ」ために教材研究や実態把握の大切さを感じたところです。

目標には「**場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像すること**」とあります。分かっているようでよく分かってなかったのが解説書を見てみました。

「場面の様子に着目して」とは、「**登場人物の行動を具体的に想像する上で、物語のどの場面のどのような様子と結び付けて読むかを明らかにすること**」

「登場人物の行動を具体的に想像する」とは、「**着目した場面の様子などの叙述をもとに、主人公などの登場人物について、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりすること**」

好き勝手に想像するのではなく、「叙述と結びつけて想像する」ことが、中高学年だけでなく、中学校1年の「内容解釈」へと繋がっていきます。「テストの点数がよい子ども達が国語をあまり好きではない傾向」という1年2組の子ども達に甲先生が「たのしく「叙述と結びつけて想像する」」授業をどう仕組まれるか、自分の学級ではどう仕組んでいこうかという視点でも参観してみましよう。

想像するために挿絵を見たり、動作化したり、「くじらぐも」と「くじらぐもが」の助詞の違いの意味を検討させたりしてきました。想像したことを発表するだけの一方通行のような展開ではなく、それを聞いた子どもたちが考えを繋げたり、返したりする姿を目指しています！



2学期の授業実践記録が近づいてきました(12月4日作成・18日発表)

研究テーマ「学びをたのしみ、自らを高める続ける子供の育成」

視点1「子供が問いをもち、主体的に学ぼうとする質の高いめあての設定」

視点2「子供の深い学び・確かな学びを導くゆさぶり発問・活動の設定」

「これでやりたい!」と決めた教科の教材研究や児童の実態を学年部等で話し合ったり知恵をしばったり、他の先生方に聞いたりして実践していきましょう!

